

中津城を囲む町には職人技の活発な歴史がある。黒田孝高(1546－1604)が1578年に城の建築を始めたとき姫路と博多の両市から職人を連れてきた。城の長く続く石壁は手を使って削られ積み重ねられたもので、それが今日まで同じ状態で残っているのである。中津にあるいくつかの作業場、例えば今でも伝統的な和傘を作っている和傘工房朱夏のような作業場と今も織物を染めるのに伝統的な染色技巧を使っている弓場染物店はその歴史を江戸時代(1603-1867)の町にいた熟練工までさかのぼる。最近では訪問者にこれらの伝統的技術について教える体験型のワークショップを運営し始めた。